

自己評価表

新居浜特別支援学校
学校番号(58)

教育方針	<p>1 生きる力を身に付けるために、学ぶ意欲、豊かな心、健やかな体をバランスよく育む。 2 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・人間性」等の資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実践する。 3 一人一人がもつ可能性を伸ばすために、障がいの状態や発達等に応じた指導・支援の充実を図る。 4 自立と社会参加を実現するために、一人一人の学びの連続性の確保に努める。</p>	重点目標	<p>1 児童生徒にとって行きたい学校、楽しい学校を目指す。 2 お互いを認め、協力して活動し、自立を目指す児童生徒を育てる。 3 児童生徒一人一人のニーズに応じた目標を設定し、基礎・基本の定着を図る。 4 一人一人が生き生きと活動する授業実践を目指す。 5 特別支援学校としての地域におけるセンター的機能の充実に努める。</p>		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	分かる・できる・考える授業の実践	○児童生徒が授業の中で学習の見通しを立て、「なぜ何のために」と課題意識を持ち、「やってみよう、調べてみよう」と主体的な行動につながるような活動を取り入れる。また、学習活動のねらいを明確にし、「分かった」「できた」と感じる授業の実践に取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインや4月に立てた個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用し、児童生徒の実態に応じた授業内容や計画を立案した。校内研修、授業研修会、学年会、作業学習会等を通して本校の研究テーマである「人と関わる力を育てる授業づくり」の視点に基づく授業実践を通して、授業内容、指導方法等について教員間で具体的な支援の在り方を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに児童生徒の支援方法について、話し合いと評価を行い、教員間の共通理解を図る。 ・面談や連絡帳を通して児童生徒の学習の様子、将来を見据えた支援の在り方などについて保護者に丁寧に伝え、学校、家庭、関係機関との連携をさらに深める。
	教材・教具の工夫	○障がいの多様化に対応し、児童生徒の実態に応じた教材や教具の工夫、ICT機器等の活用を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた教材・教具を準備し、授業で活用した。 ・授業や行事を新たに展開する際や振り返り学習の際に、写真のみならず動画を活用する場面も一層多く見られるようになった。タブレット端末も、複数の場面を見比べて学習を深めたり、振り返りと評価を即時に行ったりと活用のバリエーションが増えている。スクリーン上に教材の電子データの保管場所「教材保管庫」を新たに設けたことで、教材開発の一助となっている。 ・高等部では、個別に電子辞書の活用が広まり、学校でも公用の電子辞書を準備し頻繁に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた教材・教具の工夫を、「教材保管庫」の活用等により、教員間で共有する。 ・コンピュータやタブレット端末、プロジェクター、電子黒板などの機器の操作方法の理解を深め、最新の情報を提供する。 ・学習系WiFiが導入されるため、有効な活用方法を研究し紹介したい。
特別活動	特別活動の充実	○運動会、文化祭、学習発表会などの学校行事や部活動の集団活動の中で、一人一人が役割を持つことで主体性や協働性を高めながら充実感を味わえるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、文化祭、学習発表会などの学校行事では、児童生徒一人一人に役割を持たせることで、自ら考え、友人と協力しながら取り組む場面が多く見られた。児童生徒の学校行事に対する評価も昨年度に比べて+4.0%と大きく向上していることから、学校行事が活性化し、児童生徒が充実感を味わいながら活動していたことが読み取れる。 ・部活動においても、運動部の全国障がい者スポーツ大会出場や文化部(美術班)の全国特別支援学校文化祭での受賞など、生徒の意欲的な取組により充実した活動ができた成果が伺える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、日々の取組の充実が様々な場面で良い結果となって表れる一年間になった。今後児童生徒の活動に対する意欲の高まりを適切に支援できるように教員が全員で工夫していかねばならない。また、活動を行う際の設備が不十分な面もあるため、環境整備の必要性も検討していきたい。
生徒指導	生徒指導の推進	○児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう、全教職員で生徒指導の充実にあたる。挨拶等を通じて一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、よりよい学校生活を送れるよう努める。また、交通安全教室、防犯教室などを実施し、関係機関や地域との連携を図り、児童生徒が自分の身は自分で守るための知識や能力の育成に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、児童生徒の実態に応じた指導や支援を行い、大きな事故等もなく過ごすことができた。学部を超えて挨拶運動等を実践し、児童生徒や教職員間のコミュニケーションが活発になった。また、警察署などの関係機関と連携を図りながら、交通安全教室、情報モラル教室等の実践的な安全教育を行ったことで、自分の身は自分で守る安全意識の向上が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した活動をさらに充実したものにするためにも、より実践的な活動内容を考慮していきたい。また、外部の関係機関の協力を得るとともに、校内でも密に連携を図りながら、児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるように、安全意識を育てる指導を工夫したい。
	人権・同和教育の充実	○他者を受け入れ、互いの良さを認め尊重しあう環境づくりに努め、児童生徒の出すサインを見逃さずに対応する。また研修会などを通して教職員自らの人権感覚を磨くとともに、人権だよりの発行やいじめ調査を行い人権啓発を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ調査(年2回)を実施して児童生徒からのサインに対応するとともに、人権だより(年2回)の発行を通して人権啓発を図った。 ・校内人権教育研修会では、外部講師の先生による講演「寄り添うということ」を聴き自らを見つめ直したり、DVD「風の匂いー障がい者ー」を視聴して、教職員自らの人権感覚を磨いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究大会の発表資料などの中から参考になる内容を教職員保護者に配付し、人権意識の啓発を図る。 ・第2回校内人権教育研修会の実施方法について、教職員が学びをより深め合うことができるような場の設定をする。

進路指導	キャリア教育の推進と充実	<p>○小学部から高等部まで、発達段階に応じて組織的、系統的なキャリア教育を推進する。</p> <p>○現場実習等の体験活動を実施して自立と社会参加に必要な力を育てる。</p> <p>○キャリアガイド教室や実技指導アドバイザーの活用等の進路学習を充実し、働くことへの意欲や態度を養う。</p> <p>○学校公開セミナー、合同就職説明会等を実施して、関係機関や事業所との連携や理解を深め、適切な進路指導を行う。</p> <p>○就労支援コーディネーターと連携して、現場実習先・就労先の開拓、卒業生の職場定着支援を充実させる。</p>	C	<p>・「進路指導の手引」に小学部から高等部まで系統性のある支援について記入し、保護者との共通理解に努めた。</p> <p>・高等部現場実習では、産業科で集団実習先の事業所を1箇所増やして実施した。</p> <p>・実技指導アドバイザーとして県検定四部門の講師を招き、生徒・教員を対象にした授業を実施した。</p> <p>・学校公開セミナーで説明を聞く事業所を選ぶための補助資料として、保護者に地域別の「事業所情報一覧」を配付した。</p> <p>・就労支援コーディネーターと連携して、現場実習先・就労先の開拓、卒業生の職場定着支援を行った。</p>	<p>・「進路指導の手引」で小学部から高等部まで系統性のある支援についてより分かりやすく説明する。</p> <p>・高等部現場実習では、令和3年度より普通科・産業科とも10日間の実習期間になるように検討する。</p> <p>・今年度実技指導アドバイザー、キャリアガイド教室が産業科生徒対象であったが、来年度は普通科生徒も対象とする。</p> <p>・学校公開セミナーは今年度6月に実施したが、来年度は10月下旬のより進路意識が高まる時期に実施する。</p> <p>・関係機関ともさらに連携して、現場実習先・就労先の開拓、卒業生の職場定着支援を充実させる。</p>
健康安全	保健教育の充実	<p>○定期健康診断や毎月の身体計測の実施により、児童生徒の健康状態を把握し、一人一人のニーズに応じた保健教育を行う。特に歯科保健指導と体重管理児童生徒については、保護者や地域との関係機関と連携し、個別の保健教育の充実を図るとともに、小・中・高を通じた系統的な指導を行う。</p>	B	<p>・歯科保健指導では、歯科医・歯科衛生士と協力して小・中・高それぞれの発達段階に合わせた実践的な指導ができた。</p> <p>・要体重管理児童生徒の指導においては、担任・栄養教諭・家庭と連携しながら、個々に合った方法で指導を行った。体重管理＝嫌な事というマイナスのイメージを持たせないよう、楽しみながら続けられるように工夫して、継続的な指導を心がけた。</p>	<p>・低学年の歯科保健指導では、積極的に保護者の参加を呼びかけ、家庭での毎日のケアを充実できるよう働きかける。</p> <p>・体重管理に関しては、成長段階における個々の課題を明確にし、長期的な視野に立った指導を継続する。</p>
健康安全	安全教育の充実	<p>○関係各機関と連携し、児童生徒が安全に関する知識を身に付け、自ら身の安全を守るよう、避難訓練や模擬体験などの体験型学習の充実を図る。防災安全マニュアル、不審者対応マニュアルなどを配付、説明し、教職員間で安全対応についての共通理解を図る。学校安全だよりやホームページ等による活動紹介を通して、学校安全に関する取組の目的や成果について情報発信し、保護者への啓発と理解促進を図る。</p>	C	<p>・学期に2回以上の避難訓練や模擬体験を繰り返し実施し、児童生徒の実態に応じた安全学習を行った。11月下旬の地震発生時には、多くの児童生徒が机の下に潜って身の安全を守り、普段の訓練の成果が確認できた。</p> <p>・地震発生時の教職員の対応フローチャートや不審者への対応マニュアルを配付し、説明を行うことで、共通理解を図った。</p> <p>・避難訓練の様子や防災に関する備えなどの情報を、学校安全だよりやホームページ等を活用して情報発信した。</p>	<p>・避難を伴う訓練や自らの身の安全を確保する訓練を繰り返し行うことで、多くの児童生徒が安全に関する正しい行動を身に付けている。今後も児童生徒の実態に応じた安全学習を計画したい。</p> <p>・マニュアルについては、教職員一人一人が児童生徒の安全のために臨機応変に対応できるように、具体的な行動についてより分かりやすくまとめて整備したい。</p> <p>・今後も様々な方法で児童生徒の学習の様子や学校安全に関する取組の目的や成果について情報発信し、理解と啓発につなげたい。</p>
研修	授業力の向上	<p>○学校の重点努力目標を受けた研究テーマに基づき、計画的に各グループごとに研修を行い、授業力の向上を図る。「人と関わる力」を評価の観点とした公開授業や研究授業(キャリアアップ研修Ⅱ)を実施し、授業参観を通して研修を深め、より良い授業改善を行う。</p>	A	<p>・校内研究は3年計画の2年目である。グループ研修会を年間7回実施した。外部専門家も活用しながら計画的に研修を行った。グループ研修後には各部ごとに報告を行い、記録を全校に回覧することで、教職員の共通理解と資質・能力の向上が図られた。</p> <p>・研究授業では、学部ごとにDVDで授業を視聴し、外部講師を活用して授業研修会を行うことで、授業実践力が向上した。</p> <p>・授業公開では、「人と関わる力に関する目標」を教室に掲示し、評価の観点とした授業を行った。所感の記入用紙に授業参観の視点を設定することで、より児童生徒の支援や授業改善に生かされた。</p>	<p>・来年度、校内研究は3年計画の最終年度となる。グループ研修の中で授業研修会の回数を増やし、より児童生徒の支援や授業改善に生かしたい。</p> <p>・研究授業では、学部ごとに授業を実施し、DVDで視聴した後、授業研修会ではグループディスカッションを行う。また、外部講師を活用した授業研修会も行うことで、授業実践力の向上を図りたい。</p> <p>・授業公開では、実施時期を各部ごとに検討し、実施期間を1週間設けることで、授業参観が行いやすいようにする。</p>
研修	専門性の向上	<p>○年間3回以上外部人材を活用した教職員研修会を行い、専門性を更に高める。免許状認定講習受講の案内や免許状取得の方法などを紹介し、特別支援学校免許状保有率75%以上を目指す。</p>	A	<p>・総合教育センターの出前講座、特別支援教育地域支援事業における外部専門家を活用した研修をはじめ、年4回外部人材を活用した教職員研修会を行った。研修に積極的に取り組んだことで、専門性の向上が図られた。</p> <p>・免許状取得については、今年度の二種免許状取得者は5名の予定である。また、19名が認定講習を受講しており、免許状の取得、領域追加を目指した。今年度末の時点で取得予定者を含めた所有率は75.8%である。</p>	<p>・今年度の教職員研修会のアンケートを生かし、教員の希望に沿った研修会が行えるよう、研修計画を立てる。</p> <p>・免許状取得については、取得したい領域の免許状に必要な単位の条件や取得までの一連の流れを明確にした資料を継続して希望者に配付し、職員朝礼や職員会議を通して免許状取得に関する情報発信を行い、免許状取得者を増やし特別支援教育に関する専門性の向上を図りたい。</p>
研修	センター的機能の充実	<p>○特別支援学校の専門性を生かし、地域の園、学校からの多様な依頼に対応し、教員や保護者等への丁寧で継続した指導や助言を行う。地域のニーズに応じた研修協力、より具体的な情報提供に努めるとともに、関係機関と協力して地域における特別支援教育のセンター的機能の充実に努める。</p>	B	<p>・地域からの教育相談は55件あり、100%対応した。保護者の希望に応じて学校の概要説明や参観、授業体験、教育相談をし、適正な就学になるよう情報提供をした。教育相談、体験学習を行った幼児児童生徒については、コーディネーター同士で情報共有した。また、高等部への入学を検討している生徒や保護者、担任等に対して早めの学校参観や教育相談を促し、適切な進路選択になるよう努めた。</p> <p>・市内からの研修依頼は3件あり、2件は複数のコーディネーターで対応した。市外の中学校からの依頼にはコーディネーターの都合がつかず承諾に至らなかった。</p>	<p>・地域からの多様な相談や研修依頼に応じられるよう、事例について情報交換し合うとともに研修や講演会への参加を促し、専門性の高いコーディネーターの養成に努める。</p> <p>・地域の学校からの相談や研修依頼があった場合に確実に応じられるよう、校内体制を整えたい。</p> <p>・教育相談、研修の案内資料を新しく作成し、早期に実施されるよう、各市教委や各関係機関への案内を積極的に行いたい。</p>

学校 運営	P T A 活動の 活性化	○PTA行事を早目に計画して、理事会で綿密に協議し、実施する。保護者全員がPTA活動の状況が分かるように理事会記録や座談会報告を配付する。一人一役運動を実施し、理事会や行事ごとに保護者に積極的な参加を呼び掛ける。意見箱の意見に速やかに対応して学校改善のために取り入れる。	C	・理事会報告・座談会記録を全保護者・教職員に配付して、PTA活動への理解を深めた。 ・一人一役運動を再開したことで、PTA活動の活性化に関する項目の保護者による学校評価の数値が向上した。 ・意見箱に寄せられた建設的な意見については、担当課や管理職と相談して可能な限り迅速な対応を心掛けた。	・PTA活動が活性化するように、来年度も一人一役運動を継続して多くの保護者の協力を募りたい。保護者同士の繋がりを深めるために、学部や学年だけでなく地域の繋がりを大切にして、情報交換ができるように工夫したい。また、意見箱の意見が学校改善に生かされていることを分かりやすい形で保護者に周知するよう心掛けた。
	経費の効率的な 運用	○児童生徒及び教職員の増加により、設備維持管理費が増加しているため、計画的な経費執行を行い教職員・保護者と連携を取りながら学校設備の充実を図る。	C	・毎月の校内点検の不良箇所について、随時修繕対応を行った。学校全体の快適性が上がるように努めた。	・来年度も児童生徒及び教職員の増加により、設備維持管理費の増加が見込まれる。計画的な経費執行を行い教職員・保護者と連携を取りながら学校設備の充実を図りたい。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。